


画像鑑定報告書

患者氏名 

生年月日 

性別：男性 

事故発生日：平成 28 年 11 月 13 日

鑑定画像 検査種別・部位／検査日

- 1) 頚椎 CT 平成 28 年 11 月 14 日
- 2) 頚椎 MRI 平成 29 年 1 月 11 日
- 3) 頚椎 MRI 平成 29 年 3 月 29 日

画像所見 1)

・頚椎 CT 上、骨折を疑う所見はない。頚椎の alignment はやや不整で、変形性頚椎症を認める。骨棘の突出に伴う若干の骨性狭窄を認める。

画像所見 2)

- ・頚椎 MRI 上、骨折や血腫形成は指摘できない（図 1）。
- ・頚椎の変形性変化を認め椎体の alignment はやや不整で、椎間板各レベルで Disc osteophyte complex の突出を認める（図 2）。特に C5／6 左傍正中に Disc osteophyte complex の突出を強く認め、正中やや左優位の脊柱管の狭窄と脊髄圧迫所見が見られる（図 3）。
- ・C2／3 レベルは Disc osteophyte complex の突出は目立たないが、同部位には脊髄内に T2 強調像での高信号領域が認められる（図 4）。横断像では中央部に 2 ヶ所の T2 強調像高信号が認められることより、脊髄空洞症ではなく脊髄軟化症（myelomalacia）が考えられる（図 4）。また同部位には若干の脊髄萎縮が疑われる。

画像所見 3)

- ・頚椎 MRI 上、前回との変化は指摘できない。
- ・前回同様に C5／6 に Disc osteophyte complex の突出を認め、脊柱管狭窄及び脊髄圧迫

所見あり。

・前回同様に C2／3 レベルの脊髄の萎縮と脊髄内に myelomalacia を考える T2 強調像高信号が認められる。

コメント：

・ C2／3 レベルに脊髄中央部に T2 強調像高信号の脊髄軟化症（ myelomalacia ）が確認できる。変形性頸椎症に伴う Disc osteophyte complex の突出による脊髄圧迫とその結果による myelomalacia はよく見られる所見であるが、本例において C2／3 レベルの Disc osteophyte complex の突出および脊髄圧迫は認められない。

・非骨傷性頸髄損傷の好発部位が C2／3 とされることが、同部位に変形性変化に伴う Disc osteophyte complex の突出が有意とはいえないことより、脊髄軟化症（ myelomalacia ）と考えられる脊髄内 T2 強調像高信号の所見は、非骨傷性頸髄損傷（中心性頸髄損傷）によるものと考えられる。また同部位は脊髄の若干の萎縮が認められるが、MRI が撮像された時期が事故後 2 ヶ月経過していることより、急性期の脊髄の浮腫を呈する時期から、脊髄萎縮に移行している時期と考えて矛盾ない。

画像鑑定結果

・ C2／3 レベル脊髄内に脊髄軟化症（ myelomalacia ）と考える T2 強調像高信号領域が認められ、非骨傷性頸髄損傷（中心性頸髄損傷）と考え得る所見である。

・頸椎の変形性変化を認め、特に C5／6 左傍正中での Disc osteophyte complex の突出に伴う脊柱管狭窄と脊髄圧迫あり。

報告日：平成 29 年 11 月 1 日

画像鑑定医：



・博士（医学）

・日本医学放射線学会 放射線診断専門医



・国立がん研究センター 画像診断コンサルテーション・サービス コンサルタント

参照画像

図1) 矢状断 STIR 強調像

骨折や血腫を示唆する高信号無し。

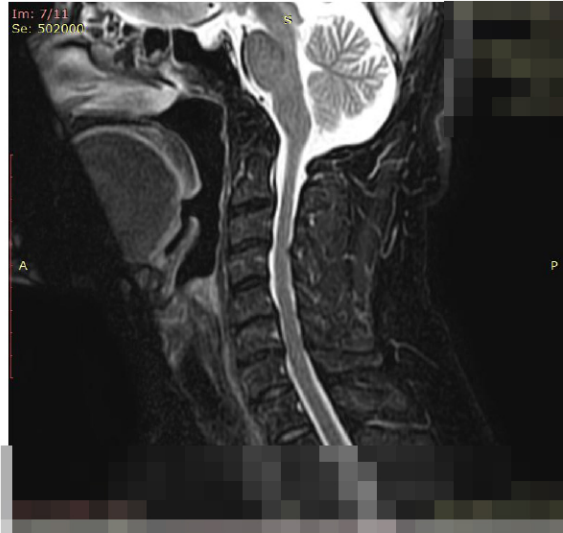


図3) 横断断 T2*強調像 (C5/6)

C5/6 左傍正中に Disc osteophyte complex の突出を認める。左傍正中に脊髓圧迫を認める。



図2) 矢状断 T2 強調像

変形性頸椎症に伴う椎体の alignment の不整と Disc osteophyte complex の突出あり。



図4) 矢状断 T2 強調像 (C5/6)

C2/3 レベルの脊髓の萎縮と脊髓内に myelomalacia を疑う T2 強調像高信号領域あり。

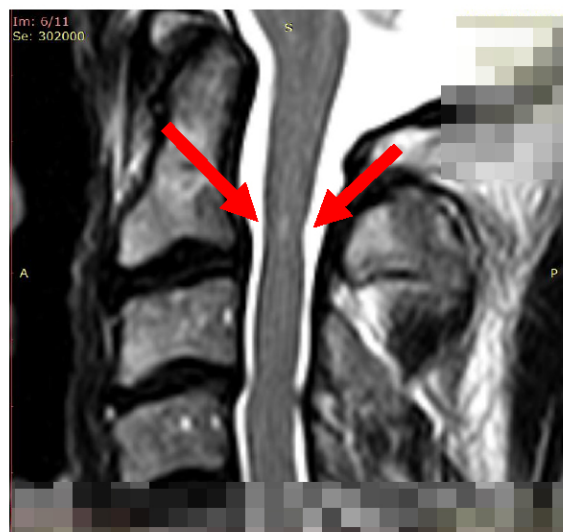
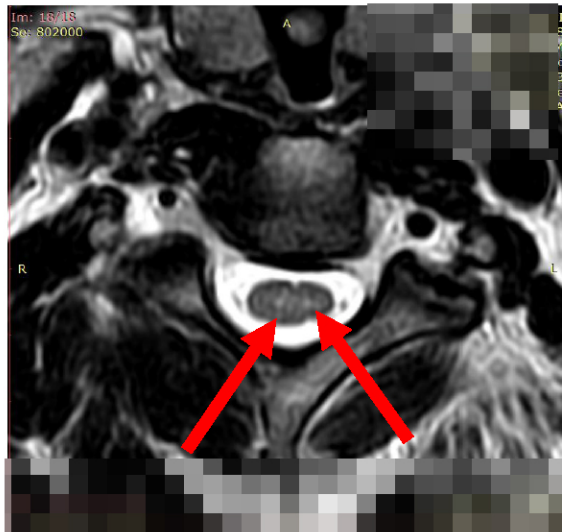


図5)横断像 T2 強調像

矢状断像で疑われた脊髄内の T2 強調像高信号領域は中央部の 2 ヶ所の高信号であり、中心管拡大は否定される。myelomalacia と考えられる。



以上